

調査結果

A. 基本事項

調査時点(2014年10月1日)時点における、各学部・学科、年次別の学生数(休学者を除く)は表に示すとおりである。調査票を提出した学生は449人であった。なお、大学院生については、数が少なくプライバシーの確保が困難であること、および学部・学科の学生と一律に比較することが困難であることにより、調査対象から除外した。今回の回答率は約95%であり、前回の約40%より大幅に上昇した。これにより、調査の信頼性は大きく向上したと判断できる。

A-1、2 学科・年次別学生数と調査票提出者

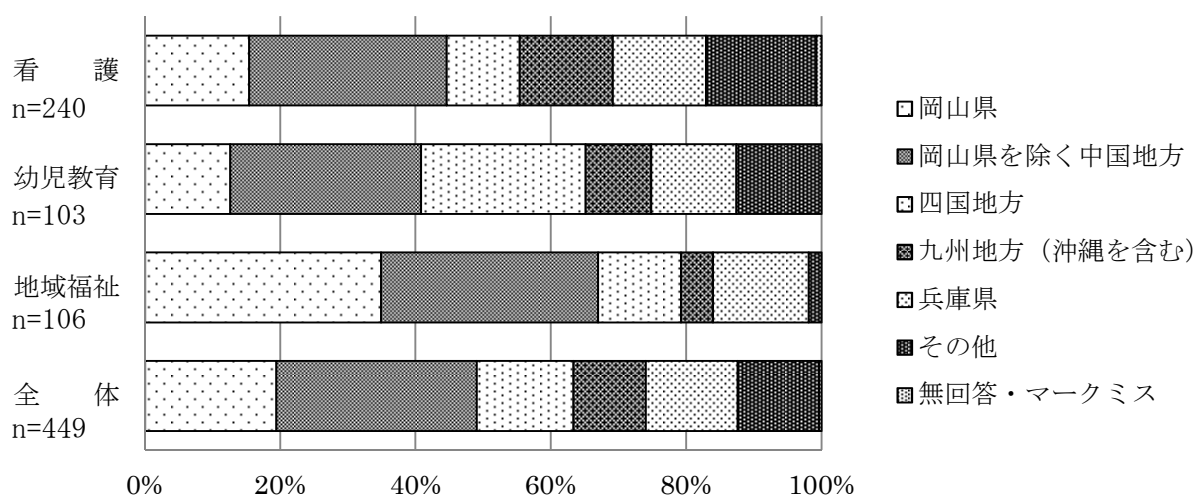
		大学看護学部					短大幼児教育学科			短大地域福祉学科			合計	大学院看護学研究科	
		1年	2年	3年	4年	計	1年	2年	計	1年	2年	計		1年	2年
回答者	実数	62	61	61	56	240	53	50	103	53	53	106	449	—	—
回答率	%	96.9%	98.4%	96.8%	86.2%	94.5%	96.4%	94.3%	95.4%	100.0%	93.0%	96.4%	95.1%	—	—
学生数	実数	64	62	63	65	254	55	53	108	53	57	110	472	5	—

※学生数は休学者を除く

学生の出身地

調査票を提出した学生を出身校の所在地別に集計すると、全体では岡山県を除く中国地方出身の学生が29.6%と最も多かった。また、幼児教育学科の特徴としては岡山県を除く中国地方が28.2%、四国地方出身の学生が24.3%で学科全体の半分を占めていた。地域福祉学科は岡山県が34.9%、岡山県を除く中国地方出身の学生が32.1%と多く、一方で、その他の地域が1.9%と非常に少ないことから、岡山県を中心とした中国地方全体から学生が多く集まっていることがわかった。

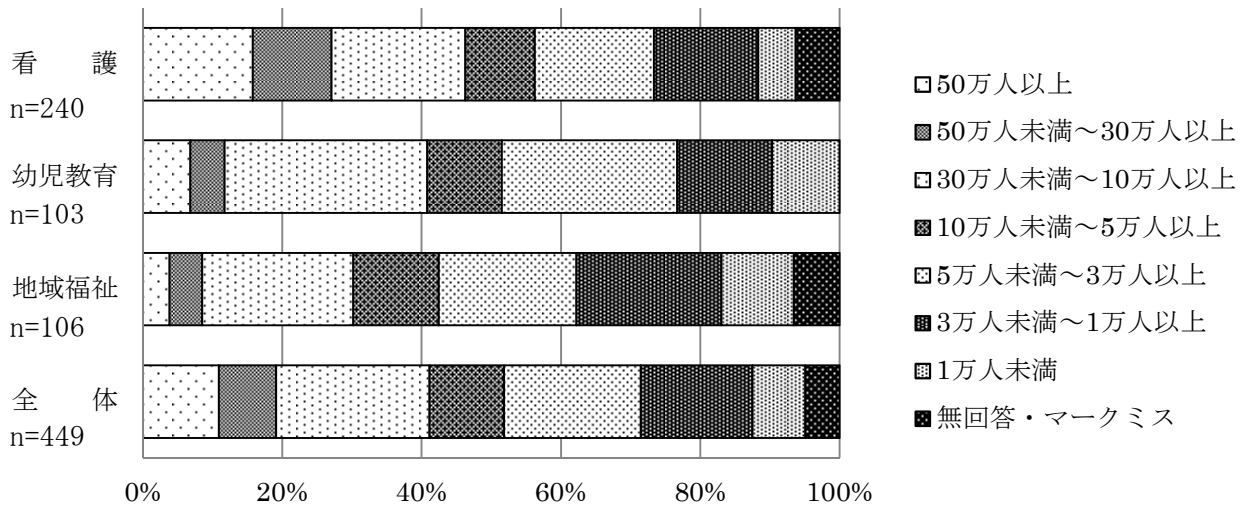
A-3 出身高等学校所在地



学生出身地の地域の特徴

調査票を提出した学生の出身地域の特徴を、出身自治体の人口規模別に集計すると次のとおりであった。もっとも多いのは人口 30 万人未満～10 万人以上の 22.0%であった。次に人口 5 万人未満～3 万人以上が 19.6%、さらに人口 3 万人未満～1 万人以上が 16.0%と続いた。前回の調査では人口 3 万人未満～1 万人以上の 19.6%が最も多く、人口 30 万人未満～10 万人以上は 13.9%に留まった。これと比較すると、人口規模がやや大きな都市の出身者が増加したと判断できる。

A-4 帰省先所在地市町村の人口

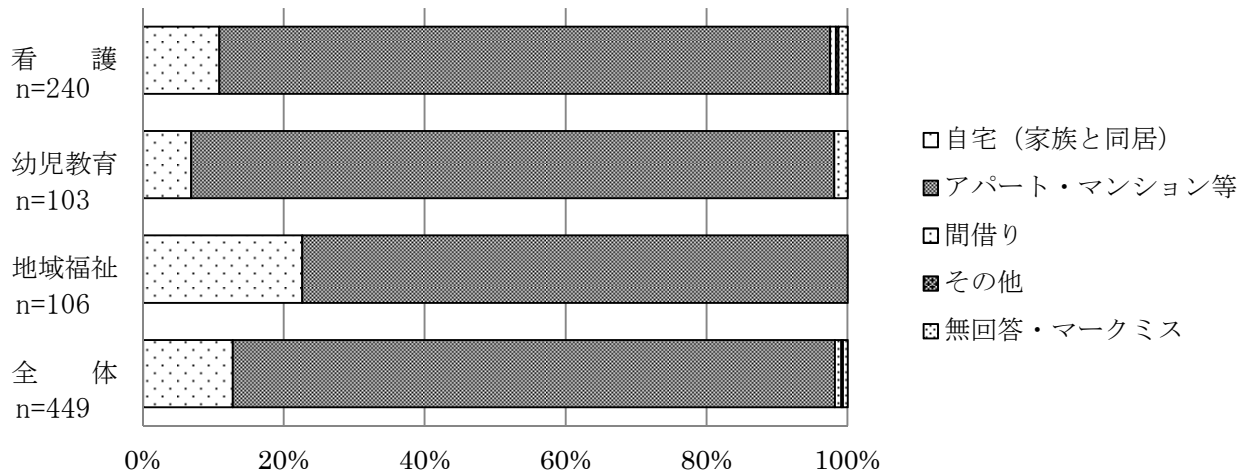


B. 現在の住居の様態

現在の住居形態

自宅(家族と同居)の居住者は全体の12.7%で、地域福祉学科の22.6%が最も高く、幼児教育学科の6.8%が最も低い。看護学部は10.8%で中間である。アパート・マンション等の居住者が85.5%と大多数を占め、間借りは0.9%とわずかである。この傾向は前回、前々回調査とほぼ同様である。

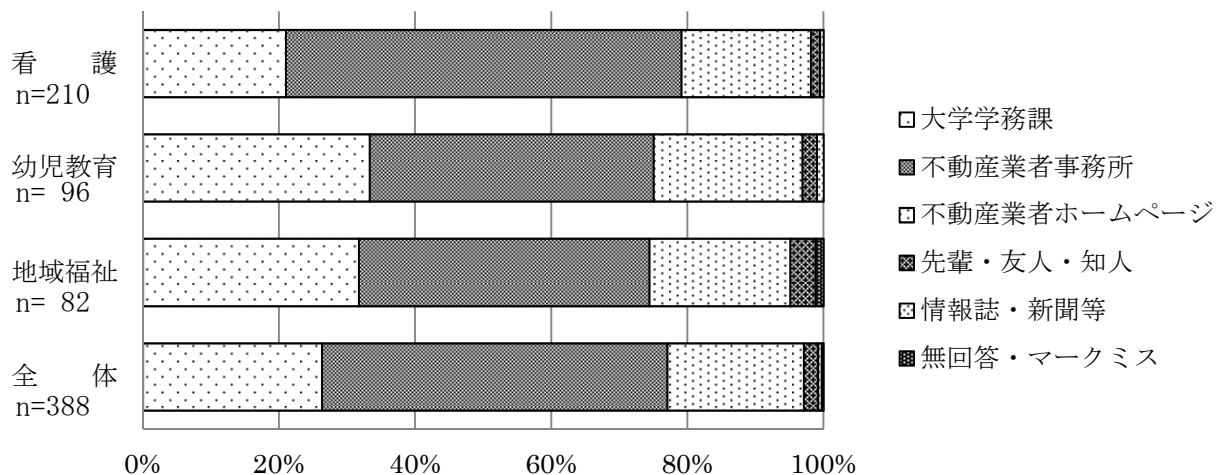
B-5 現在の住居形態



住居の探し方

民間の不動産業者の事務所を利用した者が50.8%、不動産業者のホームページを利用した者が20.1%であり、全体の70.9%が不動産業者を介して住居を探している。前回調査と比較するとインターネット等の利用が目立った。学務課の利用は26.3%であった。先輩・友人・知人の紹介は2.1%、情報誌・新聞等は0.5%とわずかであった。

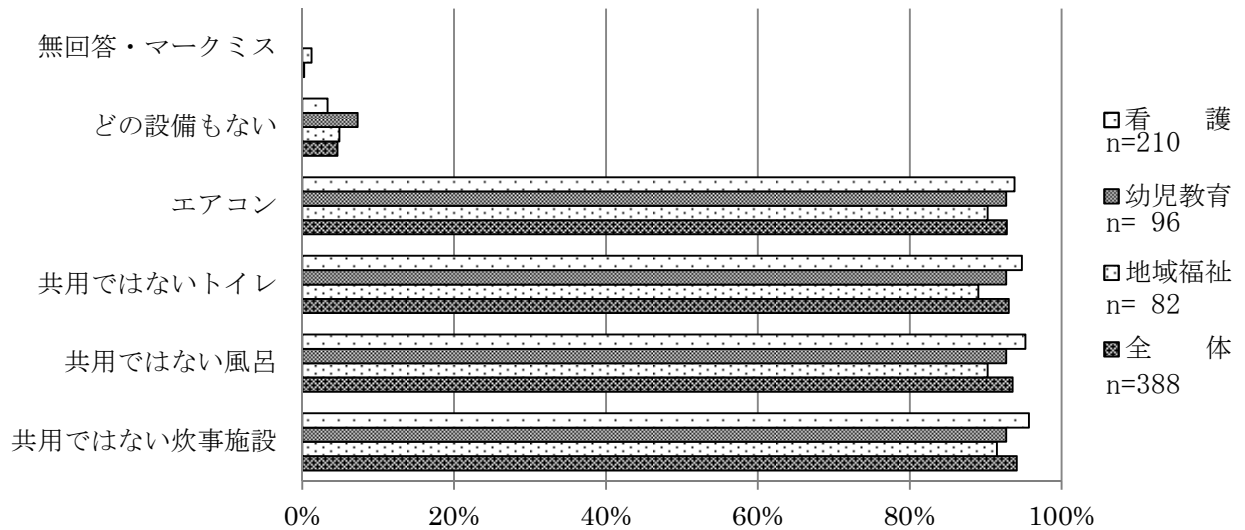
B-6 住居の探し方



住居の設備(複数回答)

アパート・マンション等の設備について、共用ではない炊事施設・風呂・トイレがある者はそれぞれ94.1%、93.6%、93.0%、エアコンの設備がある者は92.8%と、いずれもほぼ完備しており、前回調査とほぼ同様であった。

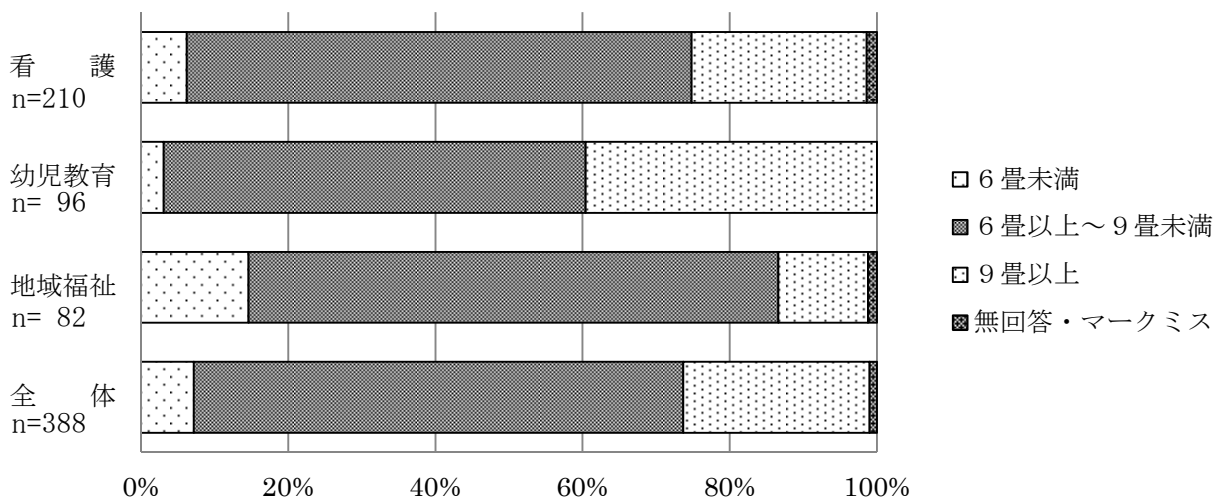
B-7 今住んでいる住居の設備(複数回答)



住居の部屋の広さ

6畳以上～9畳未満が66.5%と最も多く、次いで9畳以上が25.3%であった。6畳未満は7.2%にとどまっており、これらの割合は前回、前々回調査とほぼ同様である。

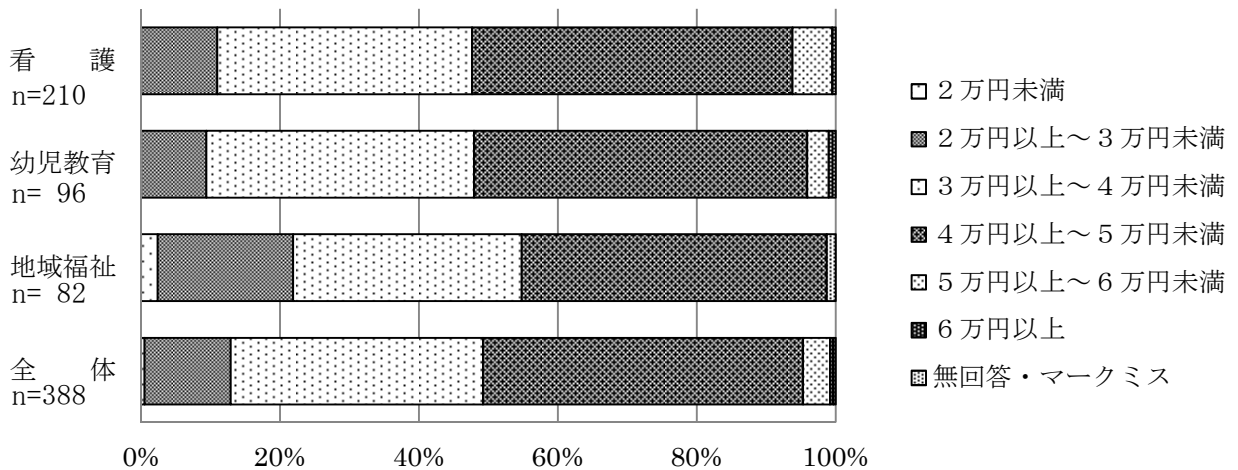
B-8 住居の部屋の広さ



住居の家賃(月額)

4万円以上～5万円未満が46.1%と最も多く、次に3万円以上～4万円未満が36.3%が多い。よって、ほとんどの学生が3万円以上～5万円未満の住居を借りていると言える。また、前回調査では2万円以上～4万円未満が60.3%、4万円以上～6万円未満は30.1%であったのに対し、今回は2万円以上～4万円未満が48.7%、4万円以上～6万円未満が50.0%であり、近年は学生が家賃の高い住居と契約していることがわかる。

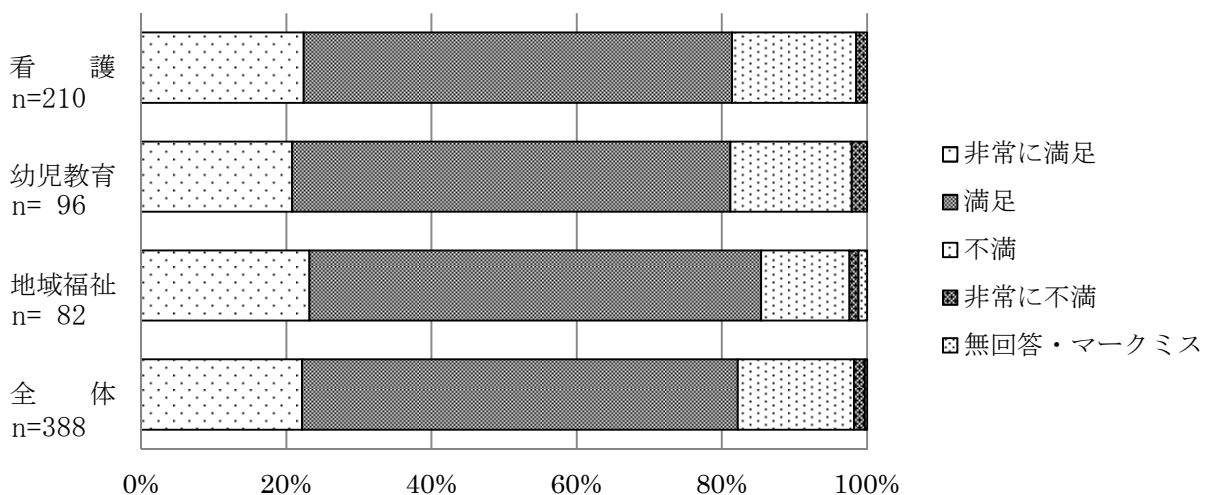
B-9 住居の家賃(月額)



住居の住み心地

非常に満足22.2%と満足60.1%を合わせると82.3%であった。前回調査では全体の58.6%が満足していると回答しており、住み心地が良いと思っている学生が増加した。

B-10 住居の住み心地



住居の住み心地の不満な理由（複数回答）

騒音・日照・臭気等の環境への不満が最も多く 28.6%であったが、前回調査の 58.8%と比較すると不満が大きく解消されている。また、設備が良くないは 13.4%(前回 47.1%)、部屋の狭さは 12.9%(前回 44.1%)など、不満な理由を個別的に挙げる人が少なくなっている。

B-11 住居の住み心地の不満な理由（複数回答）

